

第2期徳島市総合戦略の進捗状況への意見

○ 全般への意見

資料 2

委員No.	意見
1	<p>コロナ禍においても各事業推進に力を入れた各部署の努力に敬意を表す。今後は、事業推進の結果が明白に出てくるので市が求める成果が達成されるようにさらなる連携と努力に期待する。</p>
2	<p>新型コロナウイルス感染症の影響下にあるのはここ数年と同様ですが、コロナ禍に対応した事業やコロナ後を見据えた事業が増えていると感じた。特に基本目標3の「徳島市の強みを生かした、賑わいと活気のあるまち」の実現に係る事業については今後に期待できるものとなっていると思う。</p>
3	<p>第2期徳島市まち・ひと・しごと創生総合戦略は令和2年3月に策定され、計画の過半の期間においてコロナウイルス感染症の影響を受けており、各基本目標で設定している多くの数値目標の達成が困難と感じる。一方、この間に市が行った様々な試行錯誤は、本年度以降に数字(成果)として現れてくると考える。コロナ禍のため事業が難しかったことは、やむを得ない事情である。引き続き事業を継続することで目標値に近づけるよう努めていただきたい。</p>
4	<p>徳島市に住み続けたいと思う市民の割合は、82.6%で少ないとは言えないが、その実態は年齢層が高いと予測される。市民の県外流出は、高校卒業時や大学卒業時に多くの人々が動くと考えられるので、若者に市民としての誇りを感じてもらい、魅力度アップを図ることが重要であると考えられる。また、たとえ一度は県外へ出たとしても、Uターンしてもらえるよう、魅力ある仕事づくりや環境づくりが重要であると考えられる。</p>
5	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の数値目標等の指標設定のあり方に関して。基本目標2「市民の子育ての希望をかなえ、未来を担う次世代を育むまち」の実現について、数値目標を出生数のみとしていると人口減少の影響で成果が見えにくくなる可能性が高いため、合計特殊出生率や婚姻率といった複数の指標による総合的評価を検討された方がよいのではないかと。 ・今後の数値目標等の指標設定のあり方に関して。基本目標に対する進捗状況を測る指標として、計画した施策・事業の進捗率のような指標も検討してはどうか。例えば、ある基本目標を達成するための手段として10の施策・事業が設定されており、そのうち5つの施策・事業でそれぞれ設定された施策・事業目標を達成していれば、進捗率は50%と評価するような指標である。
6	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響を受けやすい「人の動き」中心の事業であっても、順調な事業とそうでなかった事業があったことや、その差が決して小さくはなかったことに少し驚いた。昨年度もコメントしたが事業間(関係部署間)の定期的で緊密な情報交換・協力が必要だと思う。 ・観光振興についてホームページの閲覧数をKPIにしているが、閲覧は検索エンジンも行っていて決して少なくない。KPIに採用した数字の中身の理解と分析を忘れないことが重要だと考える。 ・交付金事業(No.1~7)によって具体的な事業数が異なるので評価が難しいと感じた。特に交付金事業No.5について「徳島市公式観光ウェブサイトページビュー数」だけで適切な評価ができるのか疑問である。「発信」をどのように評価するのか難しいが、旅行者やウェブサイト閲覧者から寄せられた問い合わせ数は潜在的観光客からの反応として参考になるのではないかと。交付金事業は少なくとも2つ以上の(出来るだけ互いに独立した)具体的な事業と目標で構成されるのが効果の検証、弱点の抽出、改善案の策定等に有効かと考える。 ・最後に、「交付金事業」とそれを構成する「事業名(担当課)」が同じ「事業」となっていて評価の際に混乱を招くので、適切な名称に修正して貰えると助かる。
7	なし
8	なし

○ 地方創生応援税制(企業版ふるさと納税)への意見

委員No.	意見
1	仲介や推薦によって寄付が増加したことは有り難いことで、今後のステップとして期待できる。本年度は更に寄附金が増えるように積極的に進めていって欲しい。
2	今後もっと積極的に広報活動や営業活動を行い、多くの企業から寄附が集まるよう努力してほしい。
3	企業にとって、地域社会への貢献やCSR、あるいは消費者志向経営や企業ブランド向上の視点から、今後も「企業版ふるさと納税」の活用は増えると考えられる。徳島市としても、新たな財源確保と同時に、「どのような具体的課題」について、「いくら財源があれば」「どのような施策が実現できるのか」といった、企業に向けた積極的かつ具体的なアピールが必要ではないだろうか。
4	企業の寄附には、CSR、株主対応、節税対策といった多様な要因があると指摘されている。企業のニーズを踏まえ、積極的な事業展開を期待したい。 なお、寄附件数や寄附金額について、全国的な水準や徳島市の位置づけ等を分析されていたら情報共有いただけると幸いである。
5	①HPに「主な事業の一例」を挙げているが、各事業をイメージしにくいと感じた。各事業における取組例を画像や動画を用いて、視覚的に分かりやすくするなどの検討があっても良いと思う。 ②企業紹介も同様に、寄附金で得られた成果(市民生活の改善)を画像付きで紹介するなど、寄附企業のブランドイメージ向上に資する内容に充実することを検討してほしい。 ③専任の地域おこし協力隊を募集するなど県外人材を活用することで新たな知見が得られるのではないかと。
6	広報活動の成果が出ていると思うが、今後HPでの企業名等公表・感謝状の贈呈・広報紙に掲載以外の企業への対応は考えているか教えてほしい。
7	効果の検証はいわゆる「目的寄附(この事業に利用してほしいという寄附者からの指定がある)」でないのが困難ではあるが、「デジ田」の実施に向け活用方策を考案してほしい。
8	2件2000万円という数字は昨年度より大きく評価できるが、逆に今年度の実績から来年度以降「寄附金はこの程度の額が必要」というような誤解が生まれ、寄附に影響する可能性はないだろうか。寄附については金額よりも件数に重きを置いた方が良く考えるし、「ふるさと納税」という意味では単発ではなく継続的に寄附してもらえるような形の方が良いように思える。継続的な寄附に魅力を感じるような仕組みを考えてはどうか。1年度当たりの寄附金総額、寄附件数の目標を設定しておく必要はないだろうか。